

平成31年度 全国学力・学習状況調査 における分析結果 報告書

授業改善のポイント

【調査目的】

- 1 市教育委員会は、児童・生徒の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教育行政施策に生かす。
- 2 各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る。
- 3 市教育委員会は、市民に対し、市の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

【調査の対象学年】 小学校第6学年 1406名受験 中学校第3学年 1196名受験

【調査日】 平成31年4月18日（木）

【調査の内容】

- 1 教科に関する調査
 - ・小学校：国語、算数（※今年度はA問題、B問題はなし）
 - ・中学校：国語、数学、英語（※今年度はA問題、B問題はなし）
- 2 児童・生徒質問紙調査
- 3 学校質問紙調査

目次

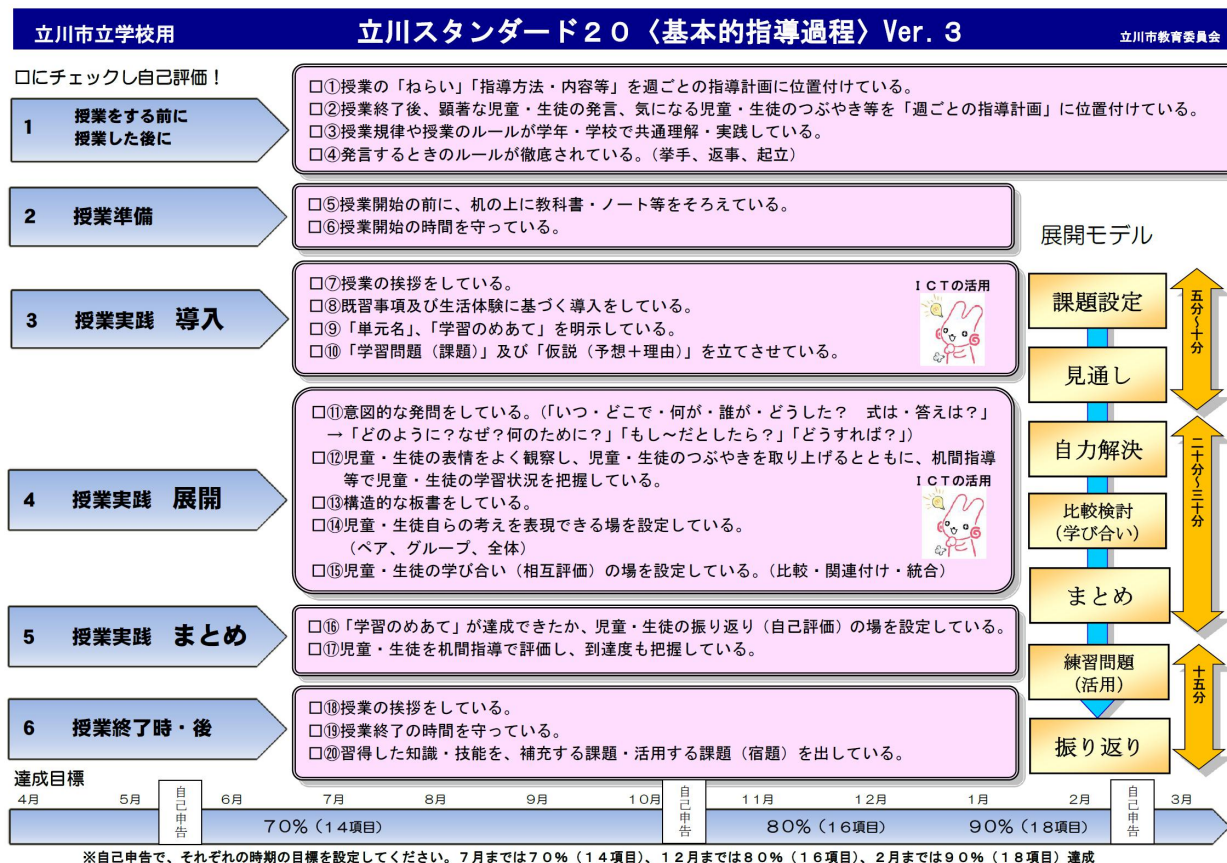
○ 立川スタンダード〈基本的指導過程〉を活用した分析について……………	2
1 小学校国語の調査結果……………	4
2 小学校国語の問題と分析・授業改善のポイント……………	6
3 小学校算数の調査結果……………	8
4 小学校算数の問題と分析・授業改善のポイント……………	10
5 中学校国語の調査結果……………	12
6 中学校国語の問題と分析・授業改善のポイント……………	14
7 中学校数学の調査結果……………	16
8 中学校数学の問題と分析・授業改善のポイント……………	18
9 中学校英語の調査結果……………	20
10 中学校英語の問題と分析・授業改善のポイント……………	22
11 学習に関する調査結果の概要〈授業改善のポイント〉……………	24
12 生活習慣に関する調査結果の概要……………	26
13 学校質問紙調査の結果……………	28
14 各教科等における授業改善のポイント……………	30
15 カリキュラム・マネジメント「評価」「改善」の視点……………	30

令和元年 9月
立川市教育委員会

○立川スタンダード〈基本的指導過程〉を活用した分析について

本市では、教育委員会で作成した「立川スタンダード〈基本的指導過程〉」を市内各校に周知し、各学級での授業の基本的な展開の在り方の指針を示すことを通して学力向上の取り組みを進めてきている。

「立川スタンダード〈基本的指導過程〉」について、次に示す。

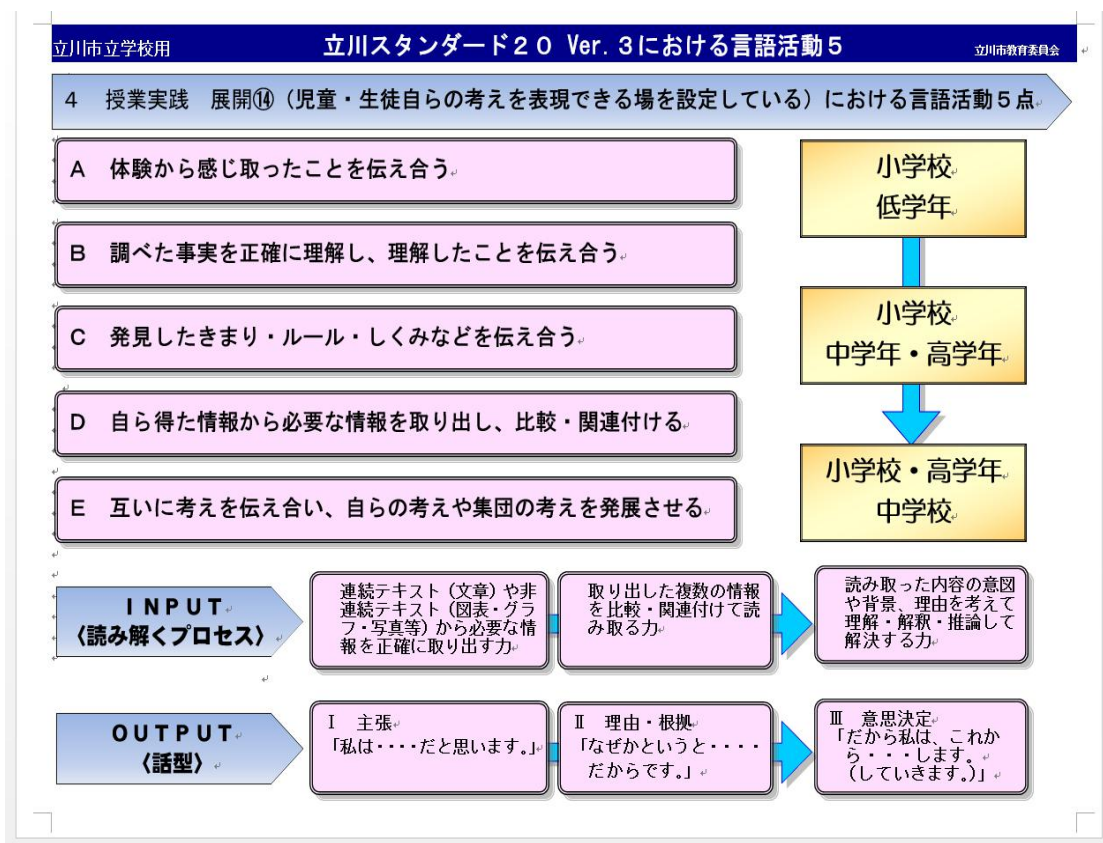


この立川スタンダードの中で、学力調査等で問題場面として設定される学習活動にかかわるものは、「4 授業実践 展開」に示されている内容とそれに基づいた言語活動の資料として添付されているAからEの言語活動である。

「4 授業実践 展開」の内容は次のように示されている。

- ⑪意図的な発問をしている。「(いつ・どこで・何が・誰が・どうした? 式は・答えは?)
→「どのように?なぜ?何のために?」「もし~だとしたら?」「どうすれば?」)
- ⑫児童・生徒の表情をよく観察し、児童・生徒のつづやきを取り上げるとともに、机間指導等で児童・生徒の学習状況を把握している。
- ⑬構造的な板書をしている。
- ⑭児童・生徒自らの考えを表現できる場を設定している。
(ペア、グループ、全体)
- ⑮児童・生徒の学び合い(相互評価)の場を設定している。
(比較・関連付け・統合)

また、言語活動の資料として添付されているAからEの言語活動は次のように示されている。



A 体験から感じ取ったことを伝え合う

B 調べた事実を正確に理解し、理解したことを伝え合う

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける

E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

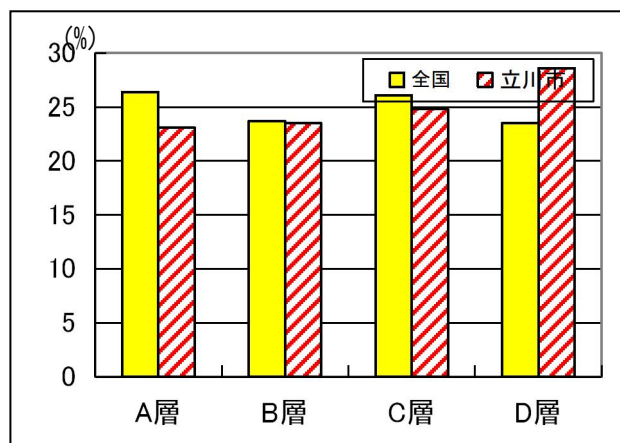
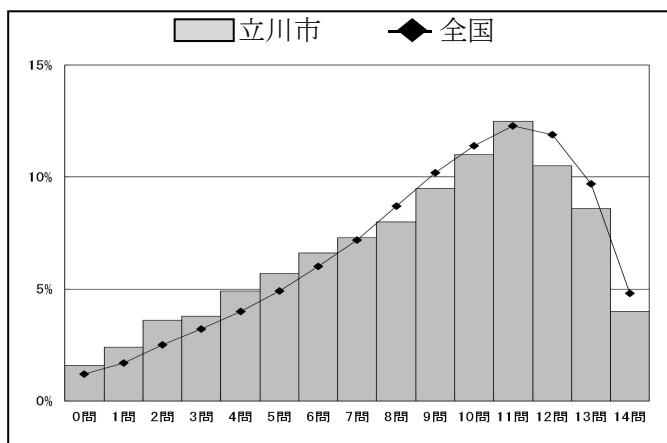
これらの言語活動や授業展開の在り方の特質を踏まえ、平成31年度全国学力学習状況調査の各問題との関連性を検討し、関連が深いと思われる項目を丸数字及びアルファベットで別表に示す。また、課題が見られる問題について、立川スタンダード〈基本的指導過程〉を活用して、授業改善のポイントを示す。

1 小学校国語の調査結果

(1) 国語の調査結果の概要

平均正答率〈%〉 立川市 61.0 全国 63.8

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要の分析

※今年度は、これまでと調査方法が異なるため、全国との比較を行った。

- ・正答数分布をみると、正答数が少ない割合が全国と比較してやや多い。
- ・四分位でみると全国と比較して、A層の割合が少なく、D層の割合が多くなっている。

(2) 観点別結果

	国語平均正答率 [%]		
	設問数	立川市 (公立)	全国 (公立)
国語への関心・意欲・態度	3	54.1	57.6
話す・聞く能力	3	68.8	72.3
書く能力	3	53.8	54.5
読む能力	3	80.1	81.7
言語についての知識・理解・技能	5	48.5	53.5

◎観点別結果の分析

- ・各観点とも、全国の平均と比較すると、やや低い。
- 特に、以下の2観点について、やや差が大きい。
- ・話す・聞く能力の平均正答率が全国と比較して-3.5ポイントである。
- ・言語についての知識・理解・技能の平均正答率は全国と比較して-5.0ポイントである。

(3) 国語の設問ごとの正答率と分析

設問番号	設問の概要	立川市 (公立)		全国 (公立)		スタンダード例
		正答率	無解答率	正答率	無解答率	
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。〈書く〉	72.3	0.6	71.2	0.5	言語活動D
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する。〈書く〉	60.4	9.0	63.4	5.9	言語活動C
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く。〈関心・意欲・態度、書く〉	28.8	3.6	28.8	3.8	言語活動E
1四 ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の_____部アを、漢字を使って書き直す。 (調査のたいしょう)〈言語〉	30.3	9.5	41.9	8.2	言語活動A
1四 イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の_____部イを、漢字を使って書き直す。 (友達にかぎらず)〈言語〉	62.4	16.6	69.4	12.1	言語活動A
1四 ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の_____部ウを、漢字を使って書き直す。 (かんしんをもってもらいたい)〈言語〉	34.4	7.3	35.6	4.9	言語活動A
1四 (2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の_____の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す。〈言語〉	46.8	15.5	47.8	11.3	言語活動B
2一 (1)	文食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の_____に入る、 疑問に思ったこと の①に対する答えとして適切なものを選択する。〈読む〉	82.6	2.2	80.7	1.4	言語活動B
2一 (2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の_____に、 疑問に思ったこと の②に対する答えになるように考えて書く。〈関心・意欲・態度、読む〉	72.9	7.4	75.9	5.0	言語活動B
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する。〈読む〉	84.9	8.3	88.5	4.2	言語活動D
3一	〃豊職人への【インタビューの様子】の_____に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する。〈話す・聞く〉	79.8	7.0	81.3	3.4	言語活動B
3二	豊職人への【インタビューの様子】の_____の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する。〈話す・聞く〉	65.9	8.3	67.4	4.2	言語活動C
3三	【インタビューの様子】の_____に、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く。〈関心・意欲・態度、話す・聞く〉	60.6	21.2	68.2	14.2	言語活動E
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の_____に入る適切なものを選択する。(習うより慣れよ)〈言語〉	68.6	12.8	73.0	7.9	言語活動B

は正答率の差に着目したもの。
 は無回答率に着目したもの。

2 小学校国語の問題と分析・授業改善のポイント

問題1四(1)アの分析(正答率に着)

【問題の概要】

高橋さんは、習っている漢字が使えていないことに気づき、書き直すことにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査のたいしょうとして・・・。

_____のひらがなを漢字でていねいに書き直しましょう。

◇解答類型及び正答率

1 (正答)	2	3	4	9	0
「対象」と解答しているもの	「対」「照」と解答しているもの	「対」しか正しくないもの	「象」しか正しくないもの	左記以外解答	無解答
市 30.3	3.5	43.9	0.3	12.6	9.5
国 41.9	3.3	29.5	1.6	15.6	8.2

【分析】文に即して「対象」という漢字を正しく書けるかどうかを見る問題である。正答率は、30.3%であり、国と比較すると-11.6ポイントである。誤答を見ると「対」は書けているが、「象」「照」のどちらでもない字を書いてしまったものが43.9%と高くなっている。指導に当たっては、学習した語句と用いる場面をセットでとらえ、多くの用例に触れたり、書かせたりすることが大切である。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

A 体験から感じ取ったことを伝え合う を活用する。

○新しい語句は意味や用法と併せて学習し、児童の生活の中での活用につなげていくことがポイント

<指導例>

習った語句

「対象」

○意味を調べ、文を作る。

《例》

○教科書を参考に使う場面を調べる。

《例》

「P38では…」

○身のまわりでの使われ方を調べる。

《例》

「ニュースでは…」

学習した語句について、その意味や用法を多様な場面で意識させ、定着を図ることが大切です。

そのためには、日常の授業の中で、ちょっとした確認の場面を設定したり、学習した語句について想起させたりすることが必要になります。

繰り返しの練習と併せて行うことが重要です。

問題3三の分析（無解答率に着目）

【問題の概要】

岸さんは、町の広報誌で見た昼職人の大谷さんを紹介するためのインタビューで、最後に大谷さんの仕事への思いに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。□□□□に入る内容を次の条件に合わせて書きましょう。

【昼職人 大谷さんの主な発言(抜粋)】

- ・一枚ずつ手作業で仕上げているので、それぞれに個性があって魅力がある。
- ・仕事の仕方や接客は親方の仕事をよく見て学んだ。
- ・親方のようになりたいと思いながら、何度も繰り返して身に付けた。
- ・50年も仕事をしているが一人前と思ったことはない。「もっといい仕事を」と挑戦し続けたい。

- 〈条件〉
- ①大谷さんの発言から言葉や文を取り上げて書くこと
 - ②インタビューとしてふさわしい言葉遣いにする
 - ③書き出しの言葉に続けて三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。書き出しは字数にふくむ。

正答例 「自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと、ちょう戦し続けているところが心に残りました。」

◇解答類型及び正答率

	1（正答）	2	3	4	9	0
条件①②③を満たしているもの		条件①b②は満たしているが③は満たしていないもの	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの	条件②は満たしているが条件①は満たしていないもの	左記以外の解答	無解答
市	60.6	0.2	7.8	5.0	5.3	21.2
国	68.2	0.2	7.4	5.6	4.5	14.2

【分析】条件に即してインタビューの発言を取り上げて自分の考えをまとめることを問う問題であり、正答率は、60.6%である。無解答率が高いのは、条件と思いに着目するという目的を合わせて考えられなかったためと考えられる。目的や条件を意識させた適切な言語活動を積み重ねることが重要である。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる を活用する。

○目的や条件を踏まえて、自分の考えをまとめることがポイント

＜指導例＞

目的

大造じいさんの残雪に対する思いを読み取る。

条件

大造じいさんの会話や言葉を取り上げて考えをまとめること。

自分の考え

「大造じいさんは、残雪のことを人間のようには思っていた。」

自分の考え

をまとめるだけで終わりにしないことが大切です。

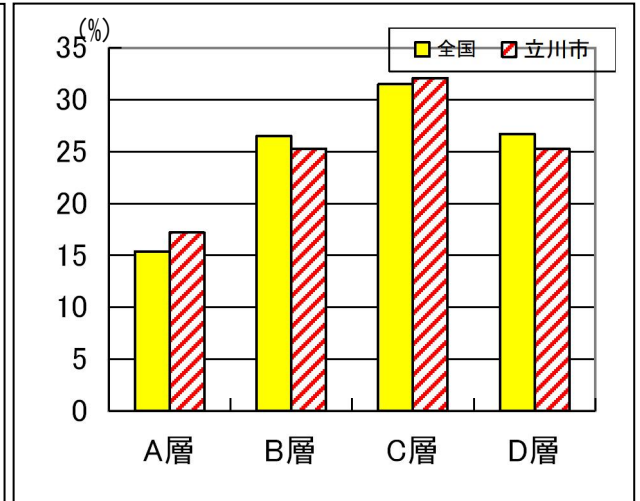
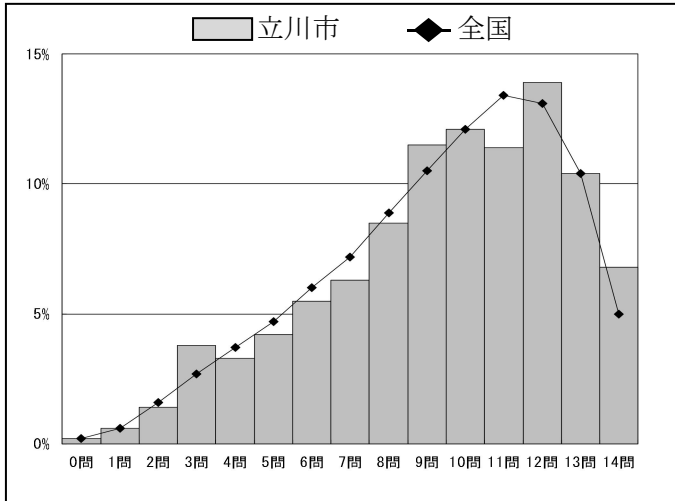
まとめた自分の考えが目的や条件に即したものであるかどうか、確かめたり、吟味したりすることが重要です。

3 小学校算数の調査結果

(1) 算数の調査結果の概要

平均正答率〈%〉 立川市 67.0 全国 66.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要の分析

- ※今年度は、これまでと調査方法が異なるため、全国との比較を行った。
- ・正答数分布をみると、全国と比較して正答数の少ない山と正答数が中間の山が見られる。
- ・四分位でみると全国と比較して、A、C層の割合が多く、B、D層の割合が少なくなっている。

(2) 観点別結果

	算数平均正答率 [%]		
	設問数	立川市 (公立)	全国 (公立)
算数への関心・意欲・態度	0	—	—
数学的な考え方	8	63.0	62.2
数量や図形についての技能	4	74.1	73.6
数量や図形についての知識・理解	2	70.5	70.1

◎観点別結果の分析

- ・各観点とも、全国の平均と比較すると、高い。
- ・数学的な考え方の平均正答率は全国と比較して+0.8ポイントである。
- ・数量や図形についての技能の平均正答率は全国と比較して+0.5ポイントである。
- ・数量や図形についての知識・理解の平均正答率は全国と比較して+0.4ポイントである。

(3) 算数の設問ごとの正答率と分析

設問 番号	設問の概要	立川市(公立)		全国(公立)		スタン ダード 例
		正答 率	無解 答率	正答 率	無解 答率	
1(1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ。〈知識・理解〉	92.9	0.1	93.1	0.1	言語活 動B
1(2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ。〈技能〉	60.7	0.8	60.3	0.6	言語活 動D
1(3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く。〈考え方〉	46.1	7.8	43.9	6.7	言語活 動E
2(1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ。〈技能〉	94.7	0.2	95.2	0.2	言語活 動D
2(2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。〈技能〉	81.0	1.1	78.6	1.0	言語活 動D
2(3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く。〈考え方〉	54.5	2.1	52.1	2.0	言語活 動E
2(4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する。〈技能〉	59.9	1.3	60.1	1.0	言語活 動B
3(1)	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。〈考え方〉	80.7	1.6	81.8	0.9	言語活 動C
3(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く。〈考え方〉	32.7	14.8	31.1	10.8	言語活 動E
3(3)	被除数と除数にける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する。〈考え方〉	71.9	3.7	74.9	2.1	言語活 動C
3(4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。〈知識・理解〉	48.1	3.5	47.0	2.2	言語活 動C
4(1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ。〈考え方〉	83.7	2.5	82.7	1.7	言語活 動C
4(2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く。〈考え方〉	72.2	6.2	68.6	4.4	言語活 動D
4(3)	残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する。〈考え方〉	62.3	5.2	62.6	3.5	言語活 動D

は正答率の差に着目したもの。

 は無回答率に着目したもの。

4 小学校算数の問題と分析・授業改善のポイント

問題3 (2) の分析 (無解答率に着目)

【問題の概要】

割り算について【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

【ことねさんの計算の仕方】

$400 \div 25 = ??$ $\downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4$ $1600 \div 100 = 16$	変わらない	$90 \div 18 = ??$ $\downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9$ $10 \div 2 = 5$	変わらない
---	-------	---	-------

【問題】

「わり算では、(あとに続く文を書く)。このことを使うと計算しやすい式を考えることができます。」

正答例 「わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。」

◇解答類型及び正答率 ①わられる数とわる数に同じ数をかけることを表す言葉 ②わられる数とわる数を同じ数でわること表す言葉 ③商が変わらないことを表す言葉

	1 (正答)	2 (準)	3	4	5	6	7	8	9	10		0
	①②③が○	③は○ ①②は数	①③ か ②③	①か ②が ×	③のみ ○	③のみ ×	①②は数 ③が×	③なし	①②が足 し算や引 き算	③だけ 書く	上記以 外	無解答
市	32.7	0.1	5.7	1.1	2.1	0.0	0.0	10.6	4.7	3.8	24.4	14.8
国	30.9	0.2	6.5	0.8	2.3	0.0	0.0	15.2	3.5	3.9	25.9	10.8

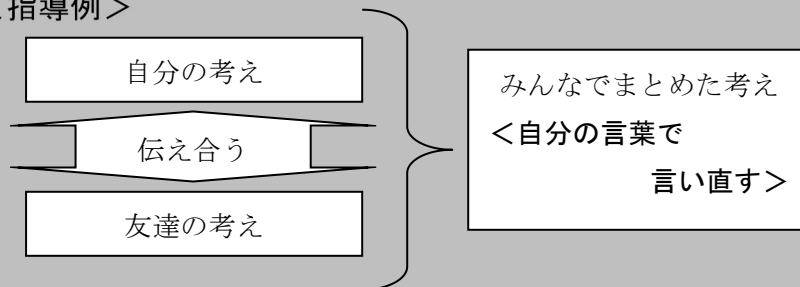
【分析】 わり算がもつ、除数と被除数に同じ数をかけたり、わったりしても商が変わらないという性質を「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って説明できるかどうかを見る問題であり、正答率は32.7%である。無解答率が高いのは、立式する際に、考え方を自分の言葉で伝え合ったり、検討したりする経験が不足しているためと思われる。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる を活用する。

○伝えて終わりではなく、自分の言葉でまとめることがポイント

<指導例>

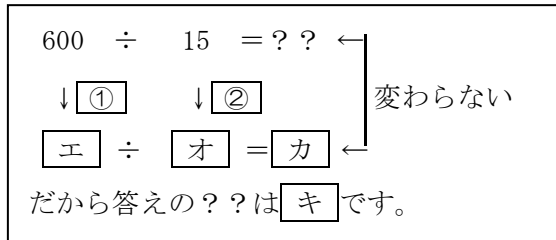


伝え合って終わっていたり、みんなでまとめた考えを、教師が説明して終わっていたりしませんか？
児童が自身の言葉で再構成する時間を少しでももつことが大切です。

問題3 (3) の分析 (正答率に着目)

【問題の概要】

600 ÷ 15 について考えます。



◇解答類型及び正答率 I : ①と②には×2 (÷3、÷5) と解答 II : エには1200 (200、120) と解答 III : オには30 (5、3) と解答 IV : カには40 と解答 V : キには40 と解答

1、2、3 (正答)	4	5	6	7	8	9	10	99	0	
I、II、III、 IV、Vが○	IVとVに 40以外の 同じ数	II、IIIが×、 IVとVが40 以外の同じ 数	II、IIIが ×、IVと Vが○	IVとVが ×	Iが×、IVと Vに40以外 の同じ数	Iが ×、IV とVが ○	Vだけ ○	上記以外	無解答	
市	71.9	4.6	1.6	1.3	2.2	3.7	7.2	0.3	3.5	3.7
国	74.9	4.6	2.1	1.0	1.7	3.9	6.8	0.3	2.5	2.1

【分析】示された計算の仕方を解釈し、計算しやすい式にして計算することができるかどうかを見る問題である。誤答を見るとI、II、IIIについて間違えた類型6、7、9が国の平均よりも高くなっている。これは、計算する際に、正しく計算することばかり意識してしまい、その式がもつ特徴を考える機会が不足しているためと思われる。

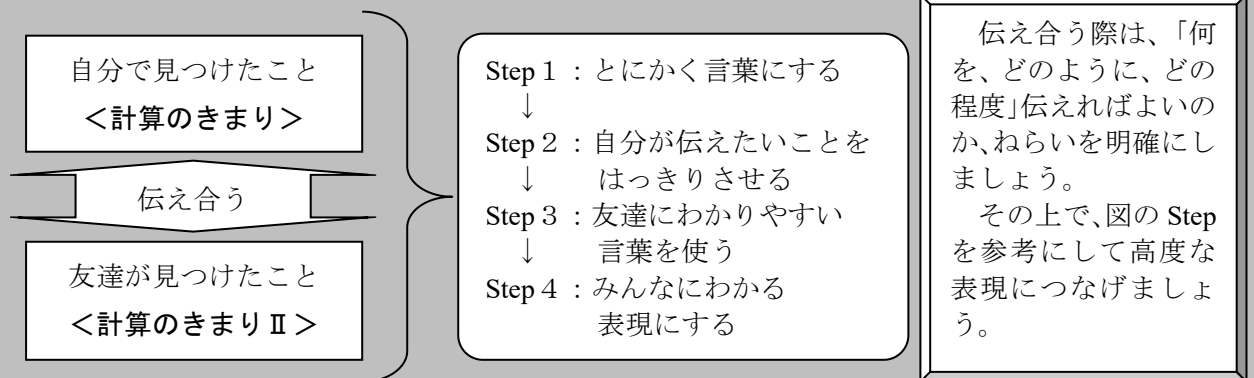
立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う

を活用する。

○見つけた事柄をわかりやすく表現を工夫することがポイント

<指導例>

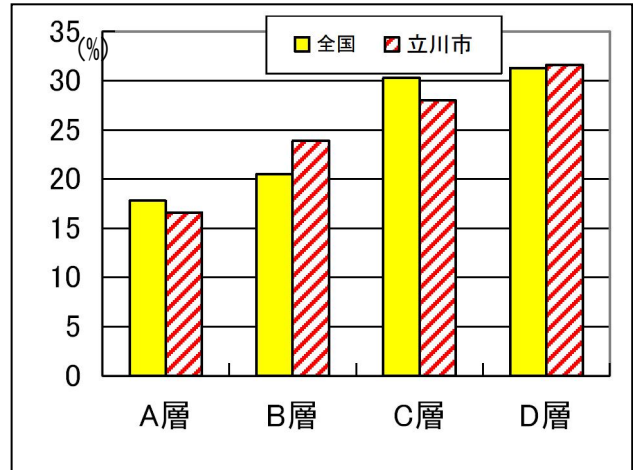
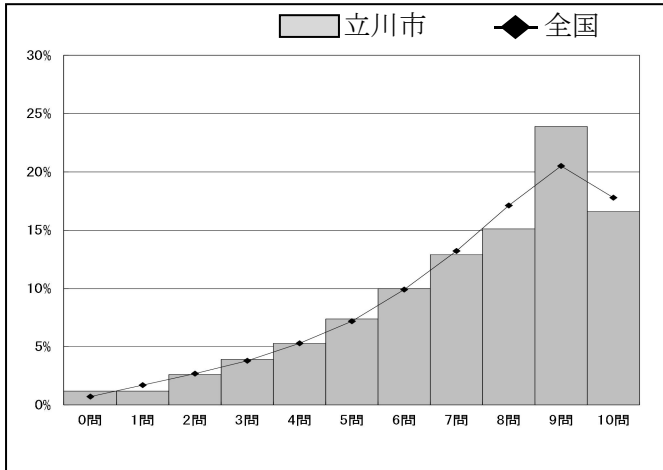


5 中学校国語の調査結果

(1) 国語の調査結果の概要

平均正答率〈%〉 立川市 73.0 全国 72.8

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要の分析

※今年度は、これまでと調査方法が異なるため、全国との比較を行った。

- ・正答数分布をみると、全国との違いが少なく、上位の山が高い。
- ・四分位でみると全国と比較して、A C層の割合が少なく、B層の割合が多くなっている。

(2) 観点別結果

	国語平均正答率 [%]		
	設問数	立川市 (公立)	全国 (公立)
国語への関心・意欲・態度	3	76.2	76.5
話す・聞く能力	3	71.6	70.2
書く能力	2	81.9	82.6
読む能力	3	72.2	72.2
言語についての知識・理解・技能	2	66.5	67.7

◎観点別結果の分析

・各観点とも、全国の平均とほぼ同値である。

以下の2観点については、やや差が大きい。

- ・話す・聞く能力の平均正答率が全国と比較して+1.4ポイントである。
- ・言語についての知識・理解・技能の平均正答率は全国と比較して-1.2ポイントである。

(3) 国語の設問ごとの正答率と分析

設問番号	設問の概要	立川市(公立)		全国(公立)		スタンダード例
		正答率	無解答率	正答率	無解答率	
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したのものとして適切なものを選択する。〈読む〉	64.4	0.3	63.9	0.1	言語活動B
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する。〈読む〉	61.1	0.3	61.5	0.1	言語活動C
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く。〈読む〉〈関・意・態〉	91.2	2.5	91.2	1.7	言語活動E
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く。〈言語〉	55.0	7.4	56.8	5.6	言語活動B
2一	話合いでの発言の役割について説明したのものとして適切なものを選択する。〈話す・聞く〉	82.8	0.3	80.4	0.2	言語活動D
2二	話合いでの発言について説明したのものとして適切なものを選択する。〈話す・聞く〉	70.4	0.4	69.7	0.3	言語活動B
2三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く。〈話す・聞く〉〈関・意・態〉	61.6	10.9	60.4	8.9	言語活動B
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する。〈書く〉	87.9	0.9	87.4	0.4	言語活動C
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。〈書く〉〈関・意・態〉	75.9	9.7	77.8	7.9	言語活動D
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する。	78.0	2.6	78.7	1.2	言語活動B

は正答率の差に着目したもの。

 は無回答率に着目したもの。

6 中学校国語の問題と分析・授業改善のポイント

問題 1 四の分析（正答率に着目）

【問題の概要】

全国中学生新聞という題材で出題

あなたは、全国中学生新聞の「声の広場」の原稿を封筒で郵送しようとしています。示されている投稿先の名前と住所を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

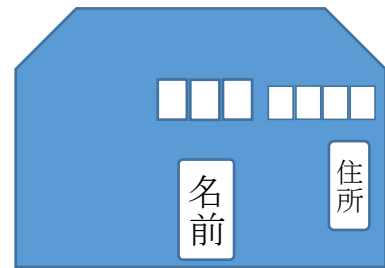
条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと

条件2 投稿先は団体なので「様」ではなく「御中」と書くこと

正答条件

- ①名前と住所が正しい
- ②名前に敬称をつけ、住所を右側に書く
- ③名前を住所より大きく書く
- ④縦書きで書く

正答例



◇解答類型及び正答率

1、2、3（正答）		4	9	0
条件①②③④を満たしている		名前か住所を間違えているもの	左記以外	無解答
市	55.0	15.7	21.9	7.4
国	56.8	16.8	20.7	5.6

【分析】封筒の住所と宛名を正しく書くことができるかどうかを見る問題である。誤答を見ると、無解答や類型9（横書きなどが含まれる）が国の平均よりも高い数値となっている。実生活で手書きの手紙や縦書きに触れる経験が少なくなっていることを踏まえ、実物を参照するなどして具体的に指導することが大切である。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

B 調べた事実を正確に理解し、理解したことを伝え合う

を活用する。

○調べたり、見つけたりした事実を確かめて活用することがポイント

<指導例>

指導する内容

例：封筒やはがきの宛名等の書き方

生徒たちの実生活

- ・横書きの文を見る機会が多い。
- ・封筒の横書きの宛名が増えている。
- ・手紙に接することが減っている。

学校生活で依頼文やお礼文の書き方を学ぶのは貴重な機会です。だからこそ、実生活を踏まえた指導と確かめる場が大切です。

手紙等の言語活動を設定する際には、手紙を出す相手や手紙を書く目的を明確にしましょう。また、目的は生徒にとって、必要であったり、納得できたりするものを設定しましょう。

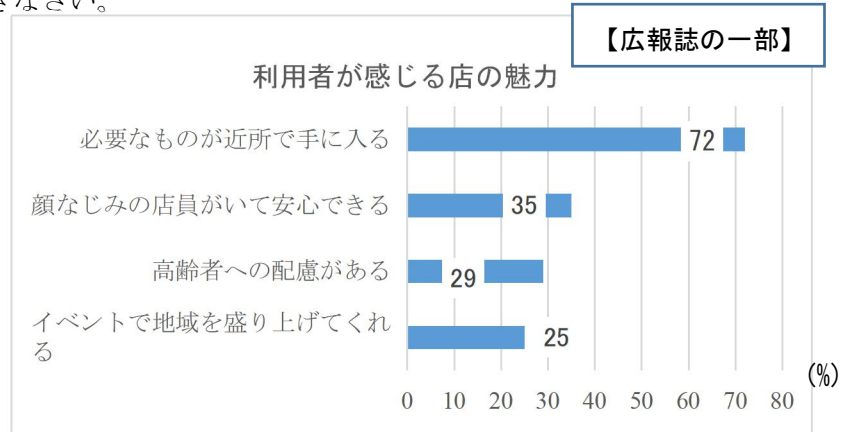
問題3二の分析（無解答率に着目）

【問題の概要】

地域の店に関する【意見文の下書き】にある「魅力」について、【広報誌の一部】にある情報を用いて具体例を書き加えます。書き出しに続けて書きなさい。

【書き出し】

「また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からもわかることがある。例えば、・・・



◇解答類型及び正答率

【正答例】 回答者全体の72%が挙げている「必要なものが近所で手に入る」ことも地域の魅力だ。

〈条件1〉【広報誌の一部】の情報を具体的に取り上げ、正確に書いている。

〈条件2〉書き出しに続けて書いている。

1（正答）		2（準正答）	3	4	9 9	0
条件①②を満たして解答		条件①②を満たす+自分の考え	条件①が○ 条件②が×	条件②が○ 条件①が×	左記以外の解答	無解答
市	18.5	57.4	0.4	12.7	1.3	9.7
国	18.4	59.4	1.3	12.1	0.9	7.9

【分析】意見文をデータを生かして加筆することができるかどうかを見る問題である。正答率は、75.9%であり、国と比較すると-1.9ポイントである。無解答率が高くなっているのは、条件に即して数値やデータを用いて書く経験が不足しているためと思われる。国語科だけでなく、各教科を通じてデータを適切に取り上げた書く活動が必要である。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける を活用する。

○データを用いて書く活動に必然性をもたせることがポイント
〈指導例〉

例1

学級でのSNSルールを見直すために、アンケートを取り、そのデータをもとにルールを提案する。

例2

移動教室に向けて、生徒たちの興味・関心についてのアンケートを取り、「学習ツアー」を企画する。

資料を組み合わせ
て書かせるだけの活動
になっていませんか？

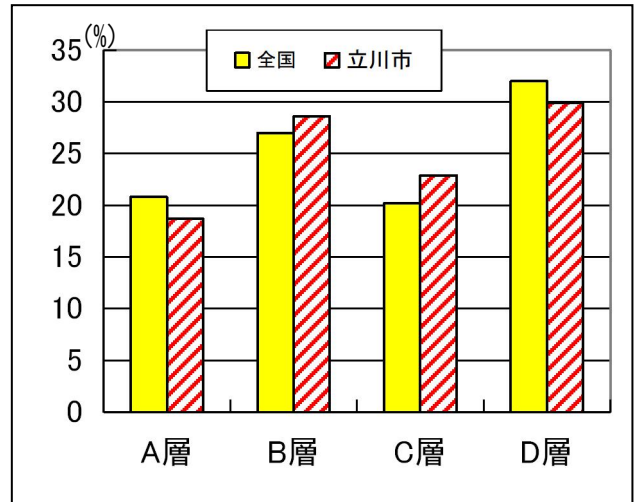
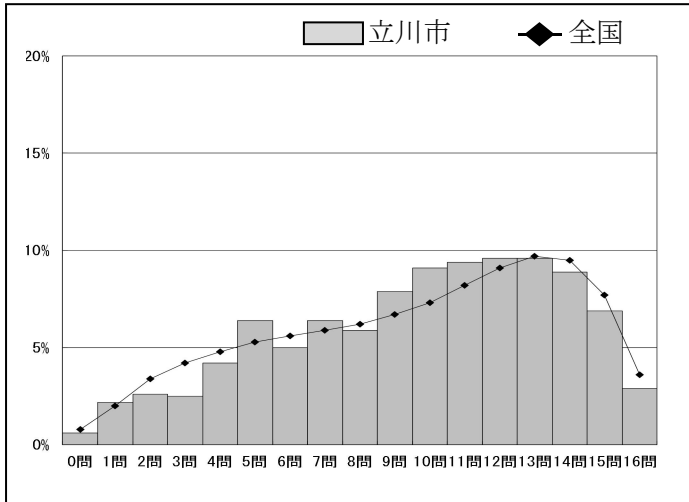
「書きたい」「書かなきゃ」と思わせるような必然性をもたせるようにしましょう。

7 中学校数学の調査結果

(1) 数学の調査結果の概要

平均正答率〈%〉 立川市 60.0 全国 59.8

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要の分析

- ※今年度は、これまでと調査方法が異なるため、全国との比較を行った。
- ・正答数分布をみると、全国より中間層の山が多く、下部にも山が見られる。
- ・四分位でみると全国と比較して、AD層の割合が少なく、BC層の割合が多くなっている。

(2) 観点別結果

	数学平均正答率 [%]		
	設問数	立川市 (公立)	全国(公立)
数学への関心・意欲・態度	0	—	—
数学的な見方・考え方	8	50.8	51.0
数学的な表現・処理	3	67.6	63.9
数量や図形についての知識・理解	5	71.4	71.3

◎観点別結果の分析

- ・各観点とも、全国の平均とほぼ同値である。
- ・数学的な見方・考え方の平均正答率については全国と比較して-0.2ポイントである。
- ・数学的な表現・処理の平均正答率は全国と比較して+3.7ポイントである。
- ・数量や図形についての知識・理解の平均正答率は全国と比較して+0.1ポイントである。

(3) 数学の設問ごとの正答率と分析

設問 番号	設問の概要	立川市 (公立)		全国(公立)		スタン ダード 例
		正答率	無解 答率	正答 率	無解 答率	
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ。〈知識・理解〉	55.1	0.4	62.2	0.2	言語活動B
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く。〈技能〉	73.5	4.9	70.1	5.1	言語活動B
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める。〈知識・理解〉	84.4	0.9	83.6	0.7	言語活動B
4	反比例の表から式を求める。〈技能〉	52.4	11.1	48.9	10.4	言語活動C
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める。〈技能〉	76.8	3.3	72.8	3.3	言語活動C
6 (1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差を表すものを選ぶ。〈見方・考え方〉	35.3	0.5	38.8	0.3	言語活動C
6 (2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。〈見方・考え方〉	36.3	13.2	34.7	11.6	言語活動D
7 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く。〈知識・理解〉	80.0	4.2	75.8	5.2	言語活動B
7 (2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ。〈知識・理解〉	77.9	1.0	77.2	0.5	言語活動B
7 (3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する。〈見方・考え方〉	53.6	16.6	53.3	17.6	言語活動D
8 (1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める。〈知識・理解〉	59.7	11.5	57.9	10.6	言語活動B
8 (2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。〈見方・考え方〉	38.4	23.6	40.8	21.3	言語活動C
8 (3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ。〈見方・考え方〉	56.2	1.7	53.6	1.0	言語活動C
9 (1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する。〈見方・考え方〉	56.2	12.4	57.4	9.5	言語活動C
9 (2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。〈見方・考え方〉	60.3	18.2	59.7	17.8	言語活動D
9 (3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ。〈見方・考え方〉	70.1	2.6	69.6	1.9	言語活動C

は正答率の差に着目したもの。
 は無回答率に着目したもの。

8 中学校数学の問題と分析・授業改善のポイント

問題1の分析（正答率に着目）

【問題の概要】

a と b が正の整数のとき、計算の結果が正の整数にならないことがあるものはどれですか。すべて選びなさい。

- ア $a + b$
- イ $a - b$
- ウ $a \times b$
- エ $a \div b$

◇解答類型及び正答率

1（正答）		2	3	4	99	0
イ、エと解答		イと解答	エと解答	イ、ウ、エと解答	左記以外	無解答
市	55.1	20.3	5.2	1.7	17.3	0.4
国	62.2	15.1	4.8	2.2	15.6	0.2

【分析】数が正の整数のとき、減法と除法はいつでも可能であるとは限らないことを理解しているかどうかを見る問題である。正答率は国と比較すると－7.1ポイントである。誤答を見ると累計2の減法のみと答えた割合が国よりも5.2ポイント高い。これは、正の整数と分数や小数との違いが整理されていないためと思われる。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

B 調べた事実を正確に理解し、理解したことを伝え合う

を活用する。

○少しでも確かめたり、思い出して伝え合ったりすることがポイント

<指導例>

【確かめるタイミング例】

- ・本時の導入場面
- ・課題提示の場面
- ・説明の直後
- ・活動の直前
- ・活動の停滞時
- ・活動終了時（見直し）
- ・ノートにまとめる際
- ・生徒が混乱した際

※学習内容に応じて適宜、確認場面を設けましょう。

【思い出せない時の対応例】

- ・ノートを見直す。
- ・教科書を見直す。
- ・友達にたずねる。
- ・分かっている友達のノートを見に行く。
- ・忘れたというサインを先生に出す。
- ・もう一度教わる。

※分かったら自分の言葉で改めて表現することが大切です。

つい指導者が説明してしまったり、代表の生徒の発言でよしとしてしまったりしていませんか？

ペアで確認させたり、忘れてしまった事柄を思い出させたり、言語活動を意図的に活用することが大切です。

問題 8 (2) の分析 (無解答率に着)

【問題の概要】

表とヒストグラムを見ると「平均が 26 分だから、1 日に 26 分ぐらい読書をしている生徒が多い」とは言えません。その理由をヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

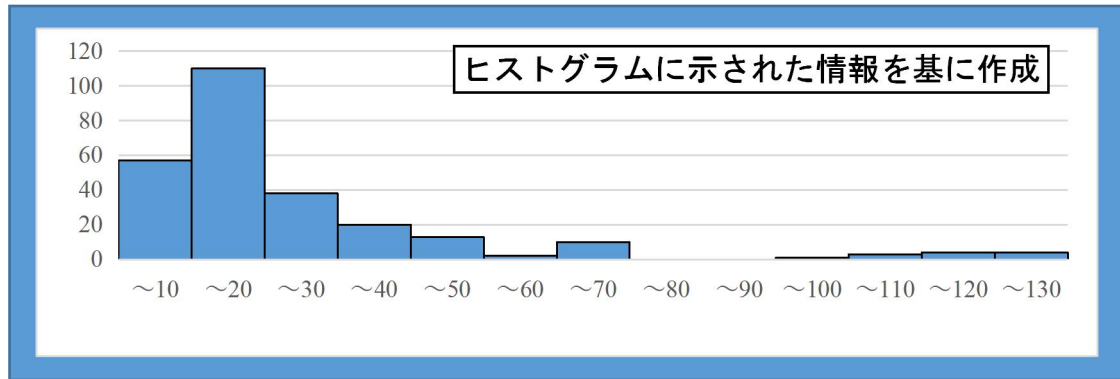


表	平均値	最大値	最小値
1 日当たりの読書時間 (分)	26.0	120	0

◇解答類型 **正答例** 1日当たりの読書時間である 26 分は山の頂上の位置にないので、1日に 26 分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。

正答の条件 次の a、c または b、c について記述しているもの。

a 26 分が山の頂上にあること。 b 26 分が、度数が最大である階級に含まれていないこと。

c 平均が 26 分だから、1日に 26 分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切ではないこと。

	1、2 (正答)	3、4 (準正答)	5	6	7	8	9	10	11	99	0	
	a c 或いは b c について記述	c 不十分 a を記述	c 不十分 b を記述	a 不十分 c を記述	b 不十分 c を記述	a 不十分 c 記述なし	b 不十分 c 記述なし	c のみ記述	左記以外のヒストグラム○	左記以外のヒストグラム×	左記以外	無解答
市	13.8	0.4	24.2	0.2	1.6	0.4	9.7	0.9	4.7	1.6	19.0	23.6
国	13.7	0.5	26.6	0.1	1.4	0.2	9.6	1.7	4.7	1.8	18.4	21.3

【分析】ヒストグラムや表の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る問題である。正答率は 38.4% であり、国と比較すると -2.4 ポイントである。無解答率が高いのは、友達の考えが間違っていることについて理由を明らかにして説明する問題であることから、普段の学習で起こりづらい問題場面であったためと思われる。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う

を活用する。

○見つけた規則性や傾向の根拠を明らかにすることがポイント

<指導例>

話し手：発見した事柄の根拠や論拠の吟味

↑ ↓ 説明したり、質問したりして考えを磨く

聞き手：信頼性や妥当性の視点からの吟味

明確な考え

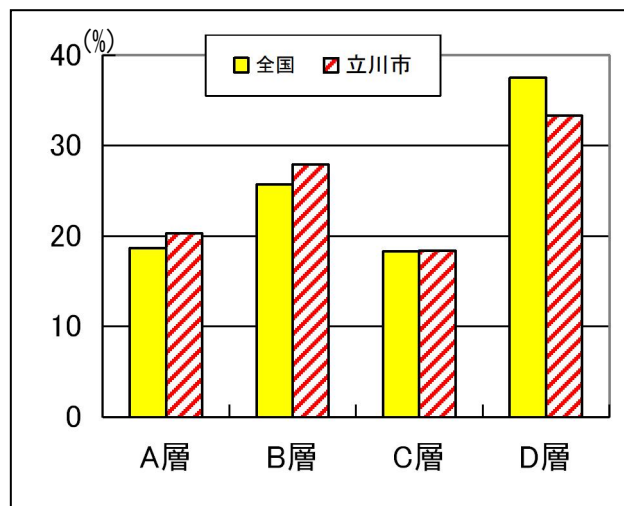
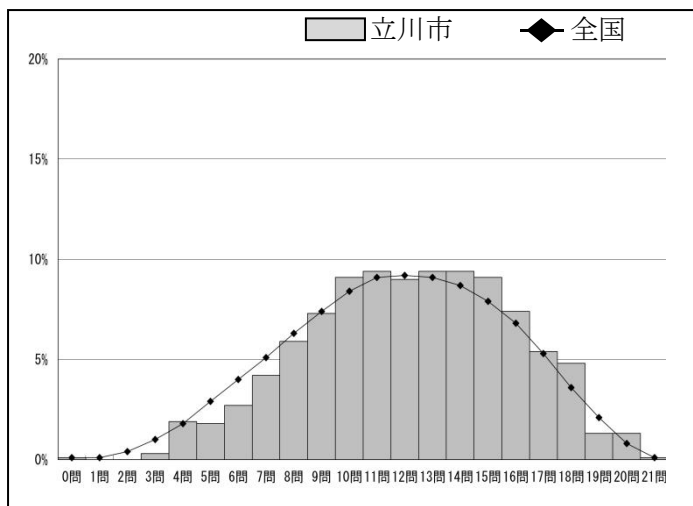
視点を明らかにした話し合いによって、根拠が明確になります。

9 中学校英語の調査結果

(1) 英語の調査結果の概要

平均正答率〈%〉	立川市 58.0	全国 56.0
----------	----------	---------

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要の分析

※今年度は、これまでと調査方法が異なるため、全国との比較を行った。

- ・正答数分布をみると、全国より中間から上位層の山が多く、下部の山が少なくなっている。
- ・四分位でみると全国と比較して、A B層の割合が多く、D層の割合が少なくなっている。

(3) 観点別結果

	英語平均正答率〔%〕		
	設問数	立川市（公立）	全国(公立)
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	—	—
外国語表現の能力	1	2.8	1.8
外国語理解の能力	6	45.6	44.7
言語や文化についての知識・理解	14	67.4	64.7

◎観点別結果の分析

- ・各観点とも、全国の平均を上回っている。
- ・外国語表現の能力の平均正答率は全国と比較して+1.0ポイントである。
- ・外国語理解の能力の平均正答率は全国と比較して+0.9ポイントである。
- ・言語や文化についての知識・理解の平均正答率は全国と比較して+2.7

(3) 英語の設問ごとの正答率と分析

設問 番号	設問の概要	立川市(公立)		全国(公立)		スタン ダード 例
		正答 率	無解 答率	正答 率	無解 答率	
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。〈知識・理解〉	93.4	0.3	91.1	0.2	言語活 動B
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する。〈知識・理解〉	92.1	0.1	88.6	0.1	言語活 動B
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。〈知識・理解〉	77.8	0.2	72.3	0.2	言語活 動B
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する。〈知識・理解〉	66.0	0.2	61.8	0.2	言語活 動B
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える。〈理解の能力〉	75.4	0.3	71.8	0.2	言語活 動B
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する。〈理解の能力〉	86.2	0.1	82.0	0.2	言語活 動D
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く。〈理解の能力〉	7.0	40.1	7.6	42.3	言語活 動C
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する。〈知識・理解〉	82.1	0.1	79.4	0.2	言語活 動B
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する。〈知識・理解〉	77.7	0.3	74.4	0.2	言語活 動B
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する。〈知識・理解〉	73.1	0.4	73.1	0.4	言語活 動B
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する。〈理解の能力〉	60.1	0.9	62.9	0.4	言語活 動C
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する。〈理解の能力〉	35.0	2.1	32.8	1.0	言語活 動D
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く。〈理解の能力〉	9.8	28.3	10.9	27.9	言語活 動D
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する。〈知識・理解〉	81.7	0.5	79.9	0.3	言語活 動B
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する。〈知識・理解〉	57.9	0.8	58.2	0.5	言語活 動B
9 (2) ①	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く。〈知識・理解〉	76.2	5.7	73.6	4.4	言語活 動C
9 (2) ②	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書く。〈知識・理解〉	36.5	12.1	28.9	12.6	言語活 動C
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く。〈知識・理解〉	49.7	7.8	53.5	6.4	言語活 動D
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く。〈知識・理解〉	40.1	9.4	32.9	9.3	言語活 動D
③	与えられた情報に基づいて、一[]の3人称単数現在時制の否定文を正確に書く。〈知識・理解〉	39.0	10.0	37.4	10.5	言語活 動D

10 中学校英語の問題と分析・授業改善のポイント

問題8の分析（無解答率に着目）

【問題の概要】

次の英文を読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

◇解答類型及び正答率 **正答例** We should not buy too much food.

1（正答）	2（正答）	3（正答）	4	5	99	0	
大文字、小文字の書き間違いを含む	軽微な文法の間違いを含む	問題を飢餓問題として解答	食料を無駄にしないことを示さず	内容が不十分伝わらない	左記以外の解答	無解答	
市	3.8	2.2	3.8	42.2	18.1	1.5	28.3
国	4.2	2.7	4.0	39.0	20.1	2.0	27.9

【分析】 廃棄食糧の問題について示された英文を読んで、自分の考えを簡潔な英文で答える問題である。正答率は、9.8%で国と比較すると-1.1ポイントである。無解答率は28.3%で国よりも0.4ポイント高い。要因としては、捨てるという意味の「waste」をとらえることができなかつたり、このような社会問題について思考し、主張する経験が少なかつたりしたためと思われる。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける を活用する。

○見通しをもって必要な情報を収集することがポイント
 <指導例>

活動のゴールを見通す

「自分の考えをまとめるのに必要な情報を集めよう」

必要な情報を集める

「自分の考えに役立つ情報かな？」

活動のゴール

集めた情報をもとに考えを主張する

資料を取り上げるだけで終わらないようにしましょう。

資料から考えをまとめたり、筆者の主張を解釈したりするゴールを見据えた言語活動の中で扱うことが大切です。

問題 9 (3) ①の分析 (正答率に着)

【問題の概要】

次のある女性に関する情報を用いて、彼女について説明する英文を書きなさい。

(情報)

--	--

【正答例】

- She is from Australia.
- She comes from Australia.

◇解答類型

	1 (正答)	2 (準正答)	3	4	5	9 9	0
3人称単数現在形の肯定文を正確に書いている。		正しいが、大文字、小文字の間違っている。	動詞の活用に誤りがある。	語や文法に誤りがある。	類型4までと異なる誤りがある。	左記以外の解答	無解答
市	48.7	0.9	0.4	2.3	38.9	0.9	7.8
国	52.5	1.0	0.9	3.3	35.2	0.6	6.4

【分析】本問題は与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかを見る問題である。正答率は49.7%で国と比較すると-3.8ポイントである。誤答を見ると、類型5の数値が高くなっている。これは、「Australia.」「She likes Australia.」のように問題の指示を正確にとらえていない間違いである。このことから条件に即した言語活動を充実させていくことが大切であ

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける を活用する。

○目的や条件に即して情報を取り上げることがポイント

<指導例>

目的「学校図書館の貸し出し冊数を増やしたい」

【図書館に着目した場合】

- 人気の図書館のレイアウトや展示方法を調べ

【借し出しに着目した場合】

- 人気のある書籍や作家を調べる。

条件「新しい本は購入しない」

取り上げる情報はどちらになりますか？

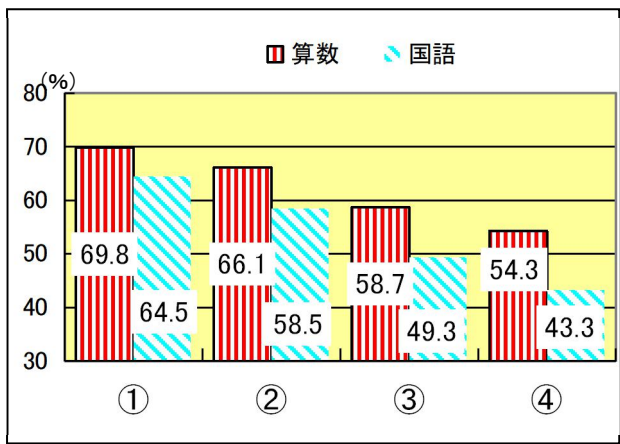
「必要な情報」には、発信者が必要な情報と受信者に必要な情報があります。活動の目的や条件に即して「必要な情報」を明らかにしましょう。

11 学習に関する調査結果の概要〈授業改善のポイント〉

(1) 児童質問紙（小学生）の結果と平均正答率との相関及び授業改善のポイント

表中の①～④は、児童質問紙において、①「当てはまる」、②「どちらかといえば、当てはまる」、③「どちらかといえば、当てはまらない」、④「当てはまらない」と回答したそれぞれの児童の平均正答率を示している。

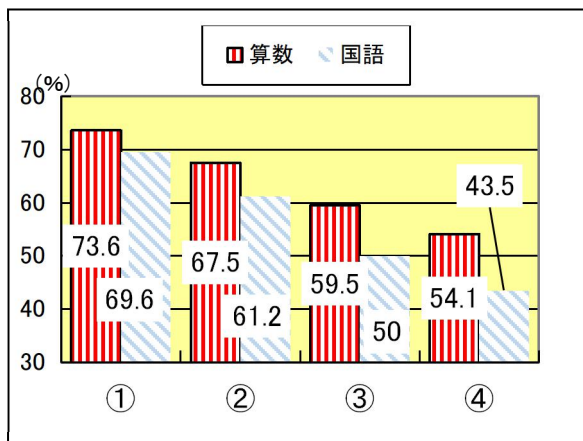
◇算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いていますか。



授業改善（ノート指導）のポイント

- 1 日付、単元名、めあて、問題が明記されているか。
- 2 解き方や考え方（プロセス）、理由などが明記されているか。
- 3 自分と異なる考えや解き方が明記されているか。
- 4 めあてに対する振り返りができるように明記されているか。

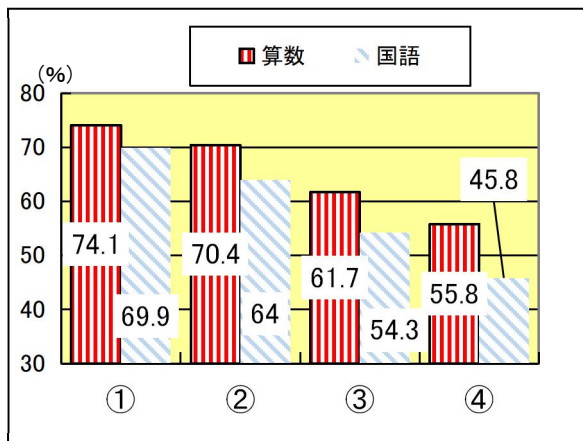
◇課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 1 学習問題・課題に対し、既習事項や生活体験等を踏まえて、予想（+理由）を立てさせ、説明させているか。
- 2 予想を確かめるための方法・実験等の計画を立てさせているか。（教師の立案・計画から児童自らの立案・計画へ！）

◇自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



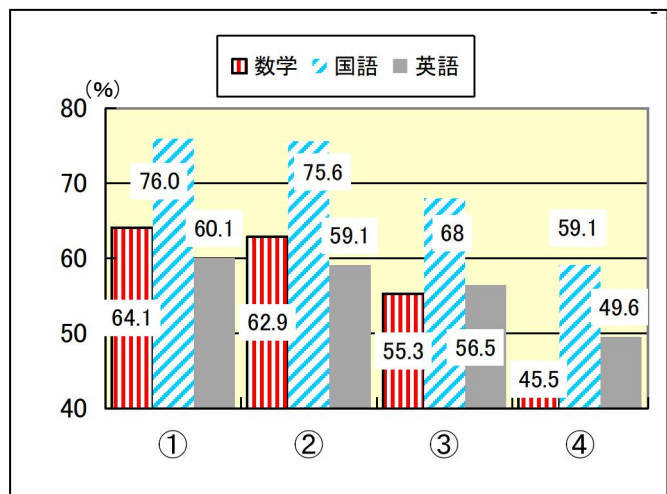
授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 資料収集・調査活動・実験等の後に、その結果を分類させているか。
- 分類した結果を表やグラフ等にまとめさせているか。
- 表やグラフ等をもとに、考察させているか。
- 考察について説明する際に、話の組み立てを考える場面を設定しているか。

(2) 生徒質問紙（中学生）の結果と平均正答率との相関及び授業改善のポイント

表中の①～④は、生徒質問紙において、①「当てはまる」、②「どちらかといえば、当てはまる」、③「どちらかといえば、当てはまらない」、④「当てはまらない」と回答したそれぞれの生徒の平均正答率（単位%）を示している。

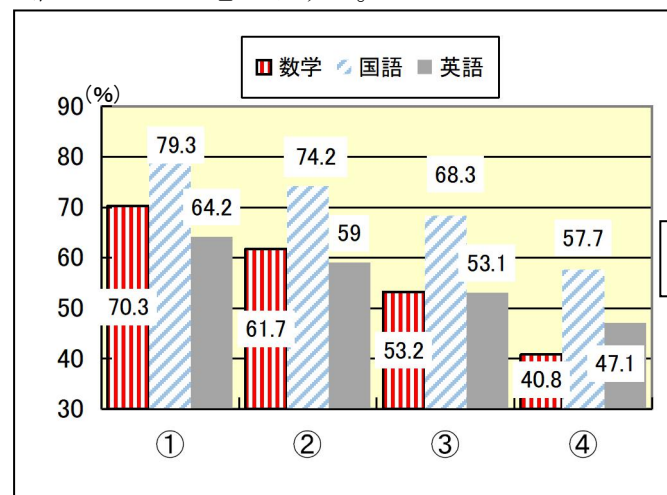
◇生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



授業改善（話し合い）のポイント

- 1 話し合いの目的が明確に示されているか。
- 2 何ができれば、話し合いのゴールになるか示されているか。
- 3 話し合う内容や考えをもたせているか。
- 4 話し合う方法が示されているか。
- 5 話し合いの結果を確かめさせているか。

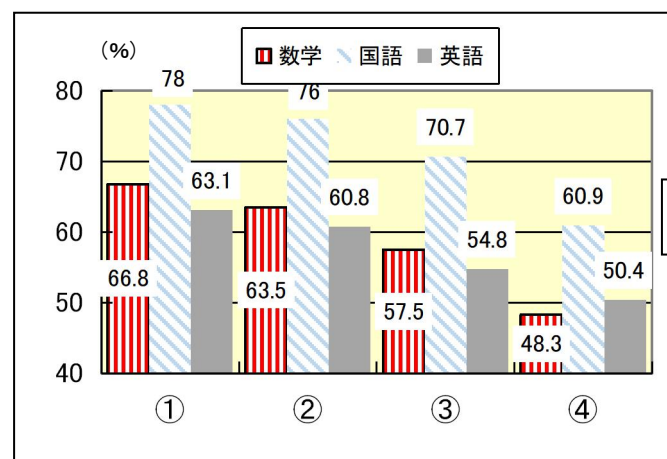
◇課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 1 学習問題・課題に対し、既習事項や生活体験等を踏まえて、仮説（予想＋理由）を立てさせ、説明させているか。
- 2 仮説を確かめるための検証方法・追究方法の計画を立てさせているか。（教師の立案・計画から生徒自らの立案・計画へ！）

◇自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



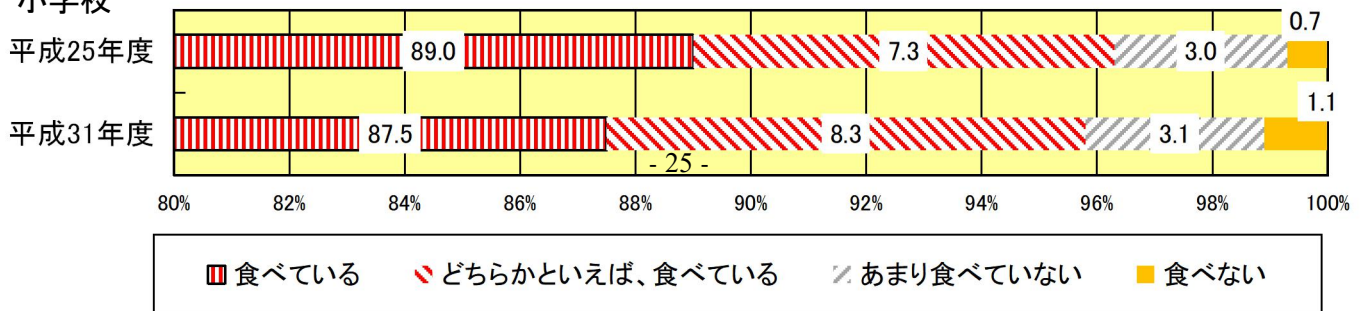
授業改善のポイント

- ・各教科等の学習を通して
- 資料収集・調査活動・実験等の後に、その結果を分類・整理させているか。
- 分類・整理した結果を表やグラフ等にまとめさせているか。
- 表やグラフ等をもとに、考察させているか。
- 結果・考察及び、問題解決的な過程について説明する場面を設定しているか。

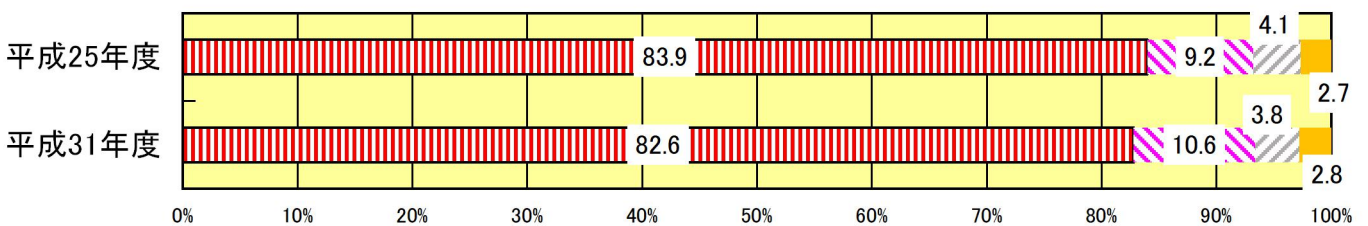
12 生活習慣に関する調査結果の概要

① 朝食を毎日食べていますか。

小学校



中学校

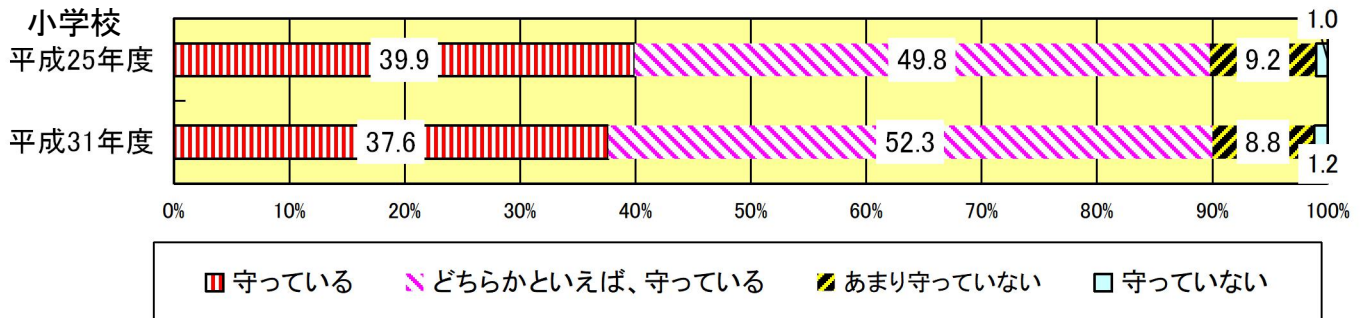


「朝食を毎日食べていますか」という質問に対し、平成25年度と比較して、「食べている」と回答した、児童の割合は1.5ポイント減少、生徒の割合は1.3ポイント減少している。

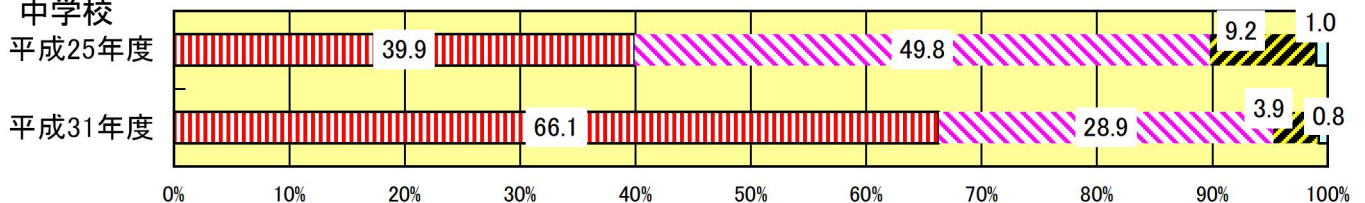
また、「食べない」と回答した、児童の割合は0.4ポイント、生徒の割合は0.1ポイント増加している。今後、より一層、関連諸機関との連携を図るとともに、家庭の理解と協力を得ながら、児童・生徒の基本的な学習習慣を確立できるよう指導の徹底を図っていくことが重要である。

② 学校のきまり・規則を守っていますか。

小学校

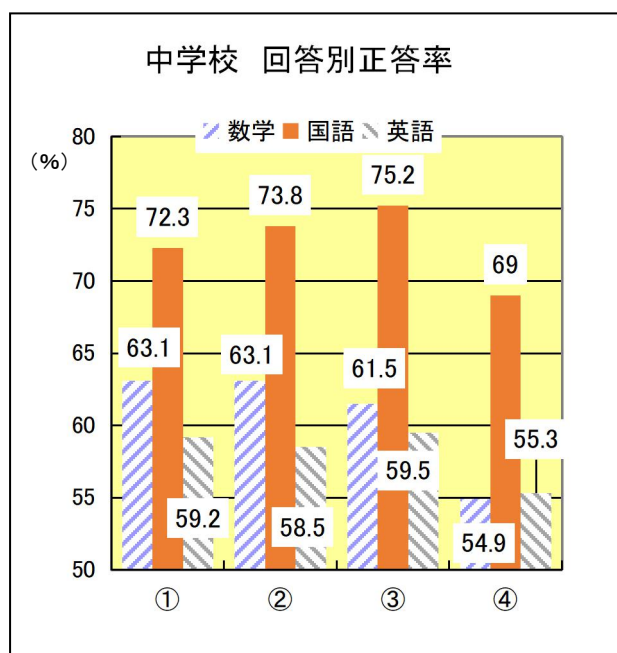
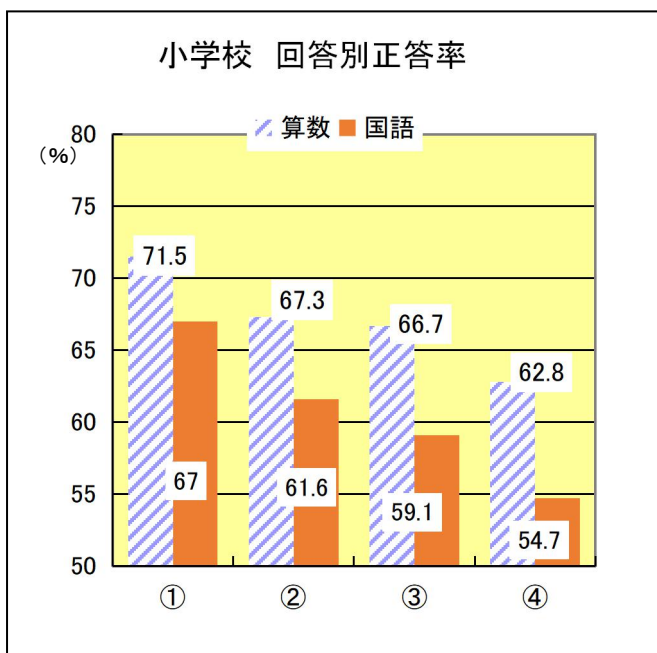
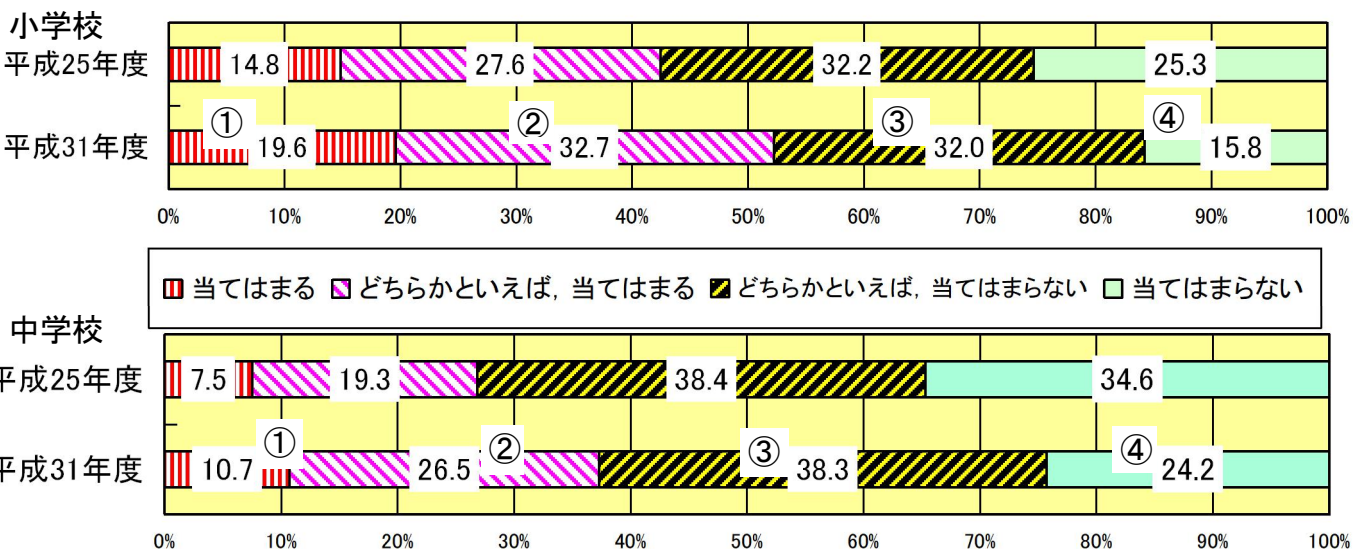


中学校



「学校のきまり・規則を守っていますか」という質問に対し、平成25年度と比較して、「守っている」と回答した、児童の割合は2.3ポイント減少し、生徒の割合は26.2ポイント増加している。また、「守っていない」と回答した、児童の割合は0.2ポイント増加し、生徒の割合は0.2ポイント減少している。特に、「特別の教科 道徳」を要とする教育活動全体を通じた道徳教育を実施し、規範意識を確立していく必要がある。

③ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか。







今年度から「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という質問が無くなり、経年比較ができなくなったため、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか」という質問を平成25年度の本市の結果と比較した。平成25年度と比較して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した、児童の割合は9.9ポイント高く、生徒の割合も10.4ポイント高い。また、「当てはまらない」と回答した、児童の割合は-9.5ポイント、生徒の割合は-10.4ポイントとなっている。

平均正答率との関連でみると、小学校では「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の平均正答率が高い傾向がみられるが、中学校の国語及び英語ではこの限りではない。

児童、生徒は「立川市民科」の学習を生かして回答したものと思われる。一方で、「当てはまらない」と回答した児童・生徒は「よくするために何をすべきかを考える」という質問に正対して「当てはまらない」と回答したものと思われる。このことから、比較的学習が理解できている生徒の反応率が否定的グループで高くなっているものと思われる。

13 学校質問紙調査の結果

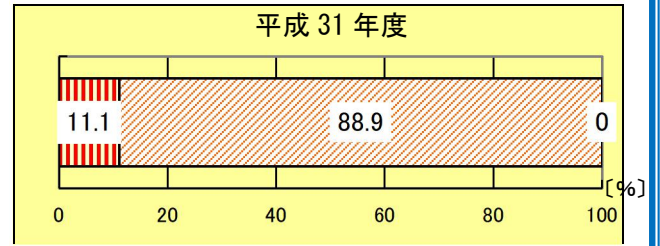
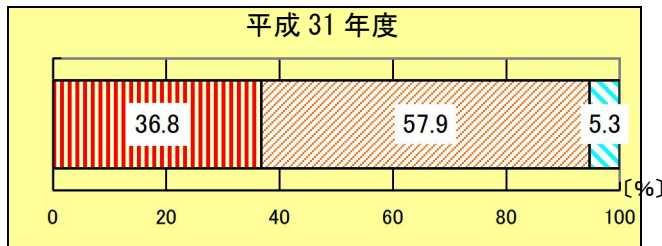
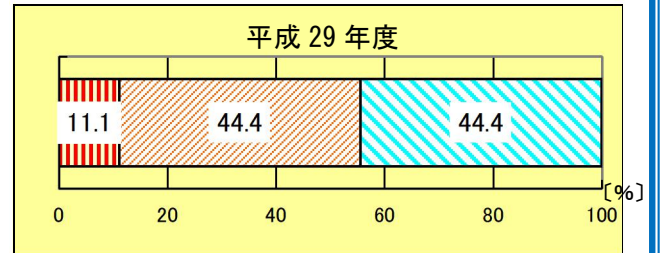
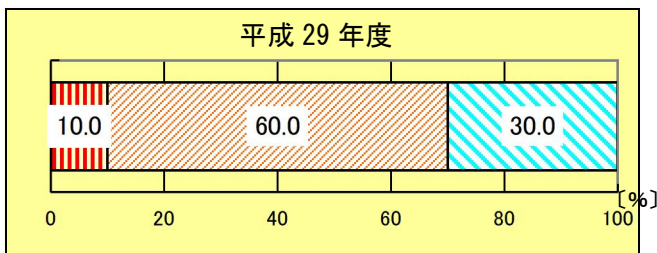
(1) 「カリキュラムマネジメント」

・表中の数値は、学校質問紙において、以下のように回答した学校の割合（単位：％）を示している。
 「よくしている」、
 「どちらかといえば、している」、
 「あまりしていない」、
 「全くしていない」

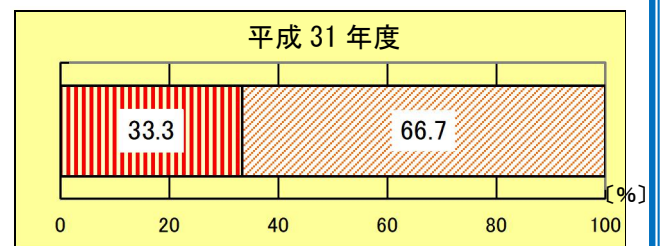
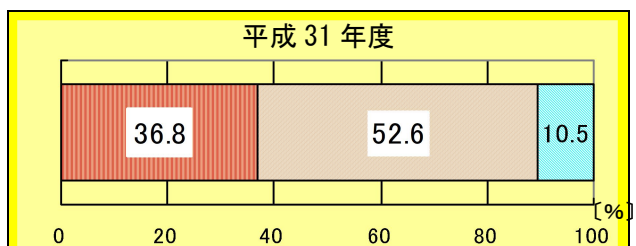
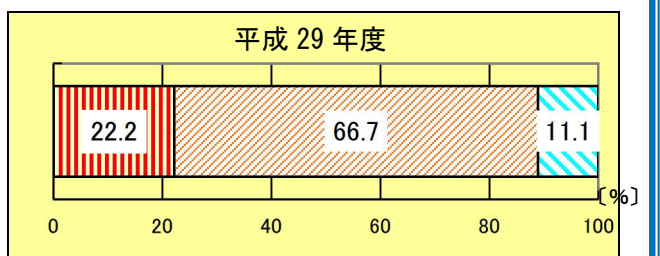
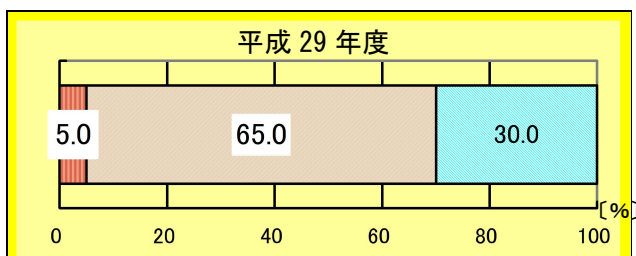
◆小学校 〈学校質問紙調査〉

◆中学校 〈学校質問紙調査〉

1 指導計画の作成にあたっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列している。







2 児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。



小・中学校とも、教育課程の編成・実施・評価・改善のサイクル及びネットワーク型学校経営システムにより、カリキュラム・マネジメントを実施できる環境が整いつつある。

(2) 学習指導—学校質問紙調査と児童・生徒意識調査の比較

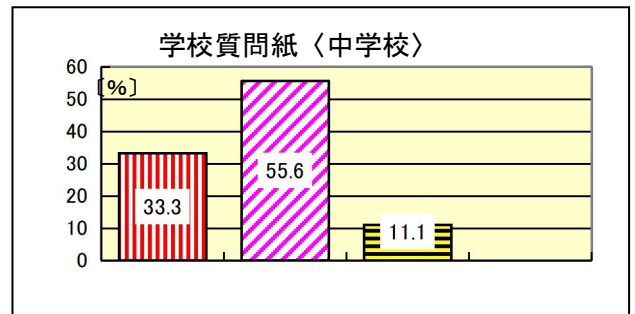
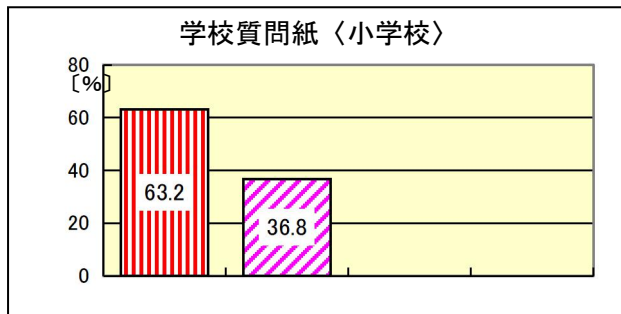
・表中の数値は、学校質問紙及び児童・生徒質問紙において、以下のように回答した学校の割合（単位：％）を示している。
 「よくしている」、 「どちらかといえば、している」、
 「あまりしていない」、 「全くしていない」

◆小学校

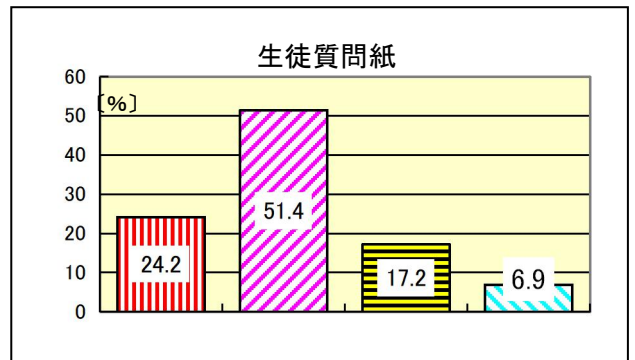
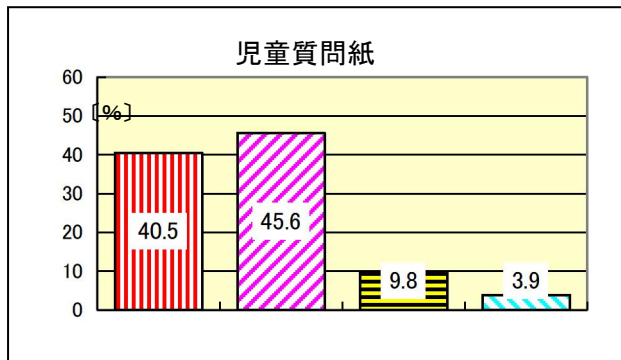
◆中学校

1 児童・生徒の自己肯定感を育む指導について

① 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

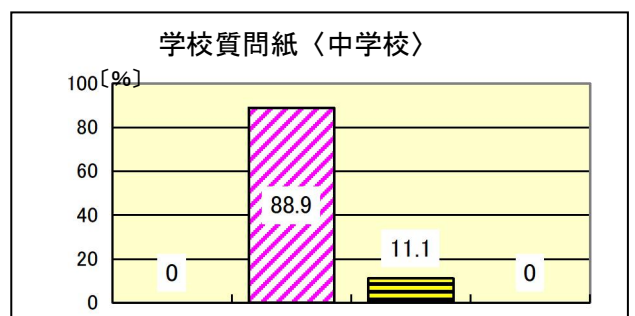
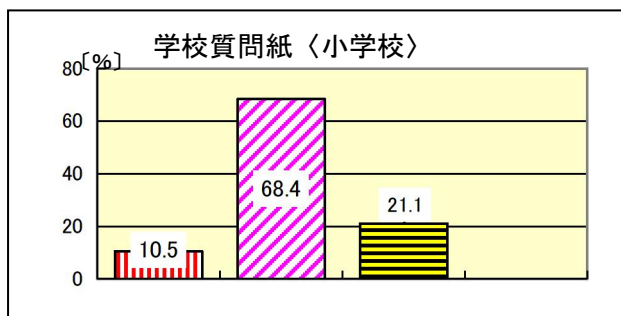


② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

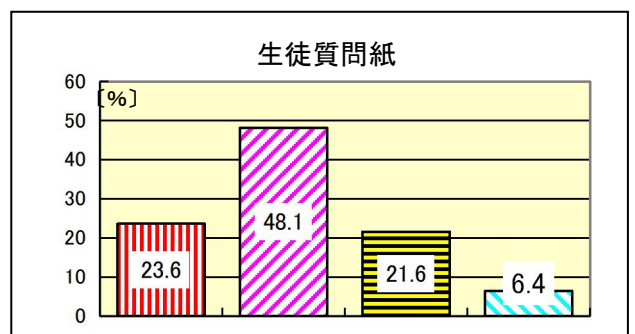
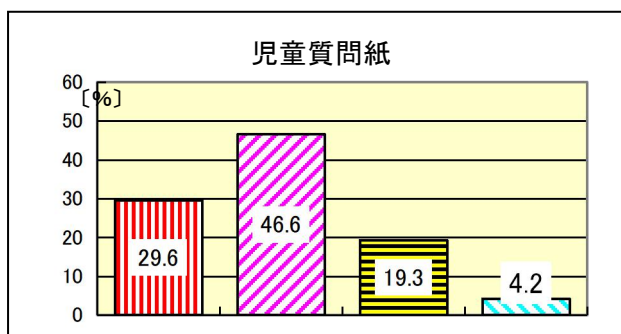


2 主体的な学習について

① 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



② 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



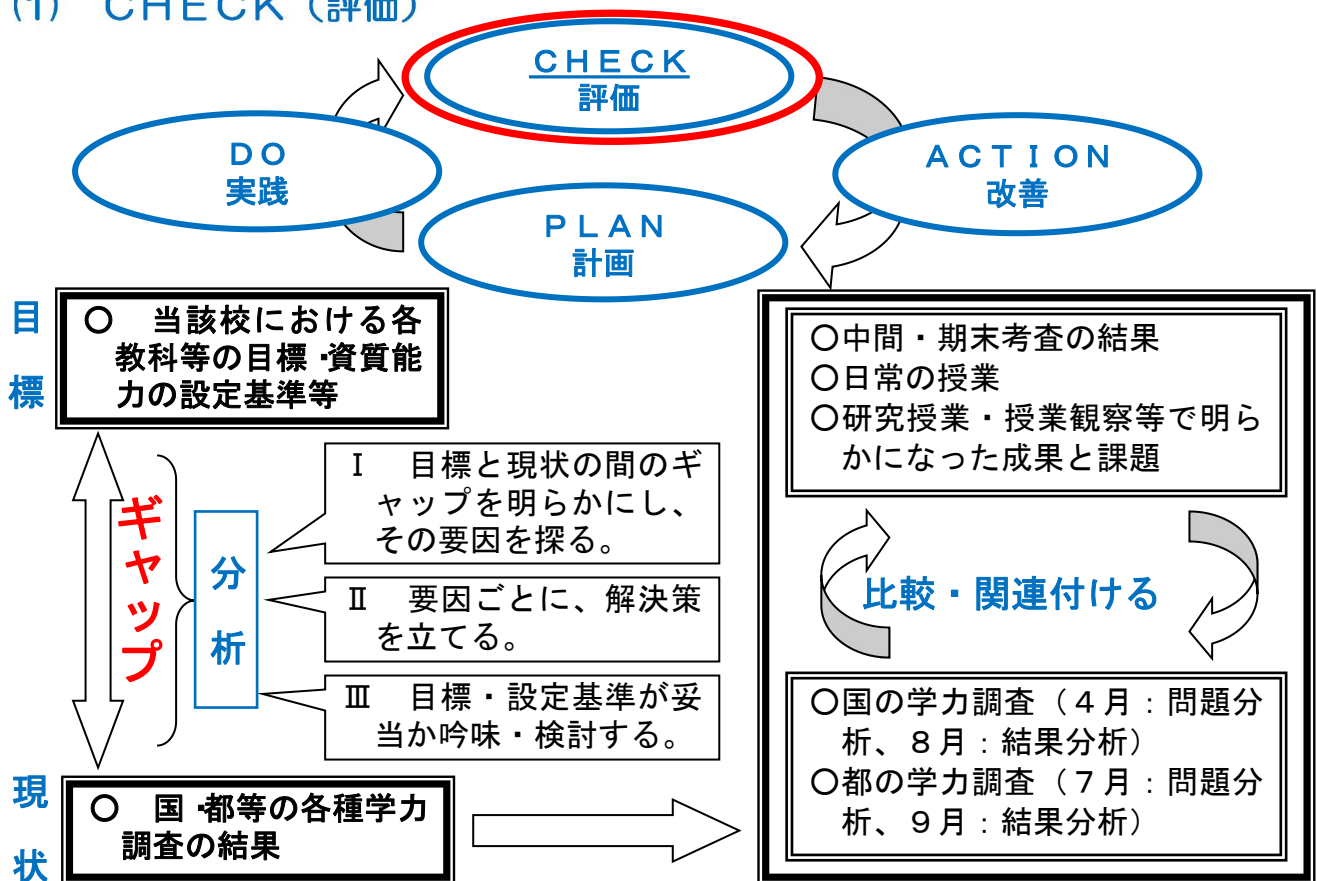
14 各教科等における授業改善のポイント

(1) 授業に、次のような場面（段階）を意図的・計画的に設定する。

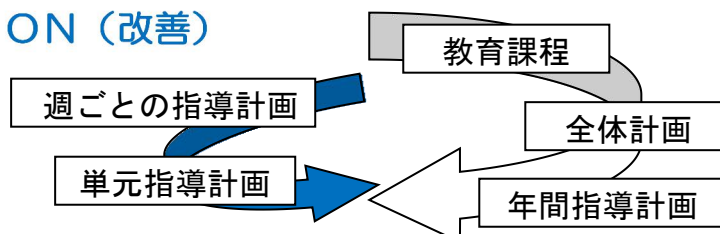
- ① 複数の「連続テキストと非連続テキスト」から目的に応じた情報を正確に取り出す場面
 - ② 取り出した複数の情報を比較・関連付けて読み取る場面
 - ③ 読み取った内容の意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する場面
- (2) 「立川スタンダード 20ver.3」に則った授業を展開する。
- (3) 新聞や調査問題を教材として活用し、授業を展開する。

15 カリキュラム・マネジメント

(1) CHECK（評価）



(2) ACTION（改善）



☆ 教育課程→全体計画→・・・←単元指導計画←週ごとの指導計画の、両方向からの評価改善を実施、それぞれを有機的に関連付け、系統化を図っていく。

◇ 改善の視点

- ① 「何ができるようになるか」育成を目指す資質・能力について
- ② 「何を学ぶのか」学習（指導）内容（学ぶ意義）・教育課程の編成
- ③ 「どのように学ぶのか」学習（指導）方法・指導計画の作成
- ④ 「何が身に付いたのか」学習評価
- ⑤ 「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」発達を踏まえた指導
- ⑥ 「実現するために何が必要か」必要な方策